

平成28(2016)年「正覚寺報」12月号

ご案内

第3回連続研修会 12月3日(土)13時半～

第十五期連続研修会ではいよいよ話し合いご法座です。今回のテーマは“宗教は必要か否か”です。流動化社会でお念仏のコミュニティの存続が危ぶまれる危機をどう克服するか、親鸞聖人が社会性、公共性との関わりで認められた“ご消息第25通”を手掛かりに話し合ってください。

お聴聞と人生を語る会 12月4日(日)20時～

本会では、阿弥陀如来が衆生の上にお姿を現わされる一部始終をお訊ねしております。

仏教婦人会例会 12月16日(金)19時半～

お聴聞の会の婦人会版です。お参り下さい。

御門徒さんのお家でのお取り越しの報恩講

お寺での報恩講が営まれて以来、御門徒さん各戸での報恩講を逐次お勤め戴いております。

お内仏様でご家族揃ってのお正信偈の読経に引き続いて、報恩講のお歌のお心をご紹介します。皆様と一緒に三番までご唱和戴きます。

- | | |
|-----------|--------|
| 一、和歌のうらわの | かたおなみの |
| よせかけよせかけ | かえるごとく |
| われよにしげく | 通いきたり |
| みほとけの慈悲 | つたえなまし |
| 二、一人いてしも | よろこびなば |
| 二人とおもえ | 二人にして |
| 喜ぶおりは | みたりなるぞ |
| その一人こそ | しんらんなれ |
| 三、なごりのみ言 | さやかにして |
| みな呼ぶ声を | 慕い来まし |
| 法の集いの | み座ごとには |
| み影をうつし | 臨みたまう |

報恩講は、浄土真宗の宗祖親鸞聖人のご法事です。お浄土にお還りになった親鸞聖人は、唯今は如来様のお名号と一つになって私達のもとにお浄土から足繁く通い、お取次ぎ下さいます。

「和歌のうらわの かたおなみの」は、修辞法の一つで、「寄せる」という文字を導き出すための序詞(じよことば)です。

海の波が岸边に打ち付けては返す姿のように、お浄土に発して私の胸底の岸边に届いて下さるのはお名号の働きです。

波は、岸边に打ち付けるとき音を立てます。

丁度そのようにお名号は、如来様の音聲(おんじょう)となり、お喚び声となって私の胸に何度も何度も寄せかけて下さいます。

二番は、特に解説は不要かと思われず。

如来様のお慈悲をお取次ぎ下さる親鸞聖人は、お姿こそ見えませんが、たった一人で私が如来様のお慈悲を喜ばせて戴くときも、ご夫婦や親子でお慈悲をお慶び下さるときも、私(達)のすぐ側にご臨席賜っています。

それこそ親鸞聖人そのお方でありました。

三番の歌詞の最初のお言葉は少々難解です。

ですので、二行目以降から頂戴して参りますと、本日のこの報恩講のみ座のように大小様々のご法座が営まれます。その都度、如来様の仰せに従ってお念仏する私達の声は、救い主たる阿弥陀如来をお慕いし、喚ばせて戴く喚び声であります。お念仏は、如来様のお手許で仕上げられ、本願力回向され、「さあ、称えてご覧」とお勧め下さる如来様のお勧めに呼応する姿であります。

ですので、称えさせて戴くというと、直ちに私の上で如来様の尊いお法りが働き出して下さるのでした。“なごりのみこと さやかにして”は、幾つもの意味に取ることが出来ますが、如来様のお名号のお救いをお説き下さった親鸞聖人そのお方のお言葉であると頂戴するのが無難なところでは、その極まりが、如来様から賜ったお六字をお称えするとき直ちに聞こえて下さる如来様そのお方のお喚び声であると頂戴するのがよいのではないのでしょうか。合掌。